福岡中学校 英語科 12月アンケート結果 考察

1 アンケート結果

- ・ 設問（1）から、1年生では77%、2年生では100%、3年生では85%の生徒が「英語の学習に意欲的である・どちらかと言えば意欲的である」と回答しています。特に2年生は授業に臨む姿勢が極めて前向きで、友達と協力して英語の力を高めようとしているのが普段の授業の様子からもうかがえます。
- ・ 設問（2）の結果は設問（1）の結果とほぼ同程度の割合を示しています。授業に臨む前向きな姿勢が進んで英語で話そうとする意欲につながっているのではないかと考えられます。
- ・ 設問（3）から、「聞くこと」「読むこと」において、「できる・だいたいできる」と回答した生徒が各学年ともに他の領域に比べて多いことが分かります。
- ・ 設問（4）から、「外国の文化や生活を知ることができた」と回答した生徒が1、2年生では100%、3年生でも92%に達しています。
- ・ 設問（5）から、「英語学習が将来役立つと思う」と回答した生徒が2、3年生では90%以上、1年生では85%に達しています。
- ・ 設問（6）から、「カウラ市との交流を今後も続けたい」と回答した生徒が1、2年生では100%、3年生でも92%に達しました。特に2年生は10月にオーストラリアの生徒を受け入れたことが貴重な経験になり、「もっと英語を話せるようになりたい」という思いを持ったようです。

2 今年度の成果

- どの学年の生徒も意欲的に英語の授業に取り組んでおり、明るい雰囲気の中で授業が行われています。今後も生徒の意欲が高まるような学習活動を取り入れるとともに、安心して発言できる雰囲気づくりに努めます。
- 今年度は、毎日の単語練習に加え、週末課題として学年の実態に応じてプリントを配付したり Qubena リスニングを配信したりしました。その結果、1年生では12月に実施した標準学力調査の「応用」分野の結果が良好でした。

3 今年度の課題

- 「話すこと」「書くこと」といった発信力につながる領域の言語活動を苦手としている生徒が多いようです。その要因として、「話すこと」については、英語の運用能力に加えて、緊張してうまく話せないという点もあるようです。「書くこと」については、文構造を理解し、文法や連語、慣用的表現に沿って文を組み立てることができないことが考えられます。

4 令和7年度の重点事項

- ◎ 「話すこと」については、ペアでのやり取りやグループでの発表の場面を増やしたり、お互いの発表の良さを伝え合わせる場を設けたりして、「話すこと」への抵抗を減らせるようにしていきます。また、First Try→Self-study→Second Try という流れで授業を組み立て、Second Try の後に、自己の学びの変容を感じることができるようになります。
- ◎ 「書くこと」については、文法や連語、慣用表現の定着を図るための言語活動の場を設定します。具体的には、既習表現を用いて身のまわりのことについて書く活動を取り入れていきます。